

松支図書館だより 2月号

平成28年2月1日

熊本県立松橋支援学校図書館発行

如月。草木の芽が張り出す「草木張り月」が変化した説と春の陽気が更に来ると意味の「気更木」など諸説あります。気温は一段と下がるものの日射しは春めいて感じられるところです。

卒業生の皆さんは、松橋支援学校で過ごす日々が少なくなってきました。一人一人が目標に向かい充実した日々になることを願っています。

【今年度たくさん読まれた本】（ 2016/01/25 までの統計 ）

順位	貸出回数	書名	著者
1位	8回	だるまさんの2	かがくいひろし
1位	8回	からすのおかしやさん	かこさとし
1位	8回	パンダ銭湯	tupera tupera
2位	7回	とまとさんにきをつけて	五味太郎
2位	7回	とある魔術の禁書目録6	鎌池和馬
2位	7回	おしゃれ総選挙！私服選抜のセンターはだれ？	マガジンハウス編
2位	7回	みみかきめいじん	かがくいひろし

※3位：貸出回数6回「おれさまはネコだぞ」「もーいいかい」「ライオンのへんないちにち」「ハグしてぎゅっ！」「AKB48」「とある魔術の禁書目録6」「おいしいな」「だるまさんと」「わにわにのおふる」「ぼちぼちのとしょかん」「クレヨンからのおねがい」「くまもんといっしょ！」という順位になりました。

読んでみたいなあと思った本がありましたか？また読んだ本が、ランキングの中に入っていましたか？気になる本があったら是非手に取ってみて下さい。

☆☆☆★ 新刊本紹介 ☆☆☆★

『みさおとふくまる』 伊原美代子／著

八年前、みさおおばあちゃんは一匹の猫と出会いました。おばあちゃんは、「福の神様が来て、全てが丸く治まるように」と願いを込めて「ふくまる」と名付けました。「お日様の下を生きる事ができればすべてが好日」。おばあちゃんと、ふくまるは今日も畑へ出かけます。心温まる写真集。



◆◆◆◆ 1月高等部委員会活動◆◆◆◆

12日に、高等部委員会が開かれました。自分たちの作業を確認して和やかな雰囲気の中で進行しました。①色紙でおひな様づくり、②お薦めの本紹介ポスター、③しおりづくり等を時間いっぱいまで頑張りました。



☆☆☆ リレーエッセイNO47☆☆☆

「私を育ててくれた本」

高等部 橋本信子

本を読むようになったのはいつだったかなと思い出してみると、幼稚園から小学校低学年くらいでしょうか…家族は自営業を営んでおり、休日も外出する余裕がなかったので、家の本棚にあった日本や世界の昔話の本、偉人の伝記などを読んで過ごしていた記憶があります。学年が上がると、忙しい母に代わって、これらの本を妹に読み聞かせするようなこともありました。今でも一人で音読することがありますが、ルーツはこの頃にあったのかもしれません。

小学校高学年頃、「ズッコケ三人組シリーズ」の第1巻「それいけズッコケ三人組」が出版されました。短気だけど運動神経抜群のハチベエ、学者肌で口達者なハカセ、のんびりやで優しいモーちゃん、性格も家庭環境も違う三人が協力して学校の行事を盛り上げようとがんばったり、事件を解決したりします。三人を取り巻くおてんばな女の子や暖かく応援している先生など周囲の登場人物とのやり取りや場面設定が気に入りで、小学生の時は最新刊がでるとすぐに読んでいました。三人を通して自分も一緒に冒険した気持ちになっていたのだと思います。このシリーズは中年編として40歳からの物語が再開され、昨年末に50歳で最終巻を迎えました。中年になった三人の活躍はまだ読んでいませんので、これから読んでみたいと思っています。



中学生になり、家族内での自分の在り方に悩んだ頃（振り返ればそうたいしたことではなかったのですが）、「次郎物語」に出会いました。自分から手に取ったのではなく、当時の担任の先生がホームルームの時間などに読み聞かせをしてくださったのです。第一部は里子に出されていた次郎が母親との愛情を取り戻すまでの話を中心になっていたと思いますが、読み聞かせをさせていただいているうちに、次郎がどう生きていくのかと気になり自分で本を借りて読み始めました。当時の私は次郎の立場からの見方しかできませんでしたが、母親の気持ちも今ならわかるのではないかと思います、こちらも読み直したいと思っています。

これらの物語を読むのに加え、高校生以降は自分の知らなかった情報を得るために本を読むことが多くなってきました（分かりやすくマンガになったものも含まれます）。最近では「家裁の人から君への遺言」（毛利甚八著）を読んで少年が起こした事件や少年法改正の背景について知ったり、「自閉症の僕の七転び八起き」（東田直樹著）を読みながら、人それぞれの気持ちの表現方法について気づかされたりしました。勧めていただいた本もあれば、新聞の書評欄から目にとまったもの、または図書館でばったり出会ったものなどいろいろな出会い方があります。

まだ読んでいない本がたくさんありますが、何かあるごとにその時にぴったりの本に出会っているのです。次の節目には、また違った本に出会い、育ててもらえるのではないかと楽しみにしています。

みなさんも、本校の図書館で、いい本に出会えますように。



※「ズッコケ三人組推理教室」「ズッコケ文化祭事件」が図書館にあります。また、東田直樹さんが書いた本で「跳びはねる思考」もあります。読んでみたいなあと思った人は、図書館まで来て下さいね。